

Title	薬品会・物産会年表（増訂版）
Sub Title	Exhibitions of natural products in the Edo period; a chronological table
Author	磯野, 直秀(Isono, Naohide)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2001
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 自然科学 No.29 (2001.),p.55- 65
Abstract	江戸時代の日本では独自の博物誌が開いたが、その軸の一つは薬品会・物産会といわれる展示会であった。その嚆矢は宝暦7年(1757)に江戸で田村藍水が主催した「薬草会」だったが、数年後には大坂や京都でも同様な会が開かれるにいたる。やがて、展示物も薬品以外の動植鉱物に広がるとともに、専門家以外の庶民にも観覧の機会が与えられるようになった。開催地も、のちに名古屋が第四の中心地となる。ところが、従来は薬品会の年表が無く、いろいろな点で不便を感じることが少なくなかったため、6年ほど前に「薬品会・物産会年表」を作成した(磯野直秀, 科学医学資料研究, 247号, 6-14, 1995年)が、その後、それに漏れていた会が相当数あることがわかり、他方では訂正を要する事例もいくつか出てきた。そこで、前報を増訂したのが以下の年表である。残念ながら、江戸・京都・大坂・尾張以外の各地については新しい知見がまったく得られなかったが、その資料発掘は今後に期したい。
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10079809-20010001-0055

薬品会・物産会年表（増訂版）

磯野直秀

江戸時代の日本では独自の博物誌が開いたが、その軸の一つは薬品会・物産会といわれる展示会であった〔注1〕。その嚆矢は宝暦7年（1757）に江戸で田村藍水が主催した「薬草会」だった〔注2〕が、数年後には大坂や京都でも同様な会が開かれるにいたる。やがて、展示物も薬品以外の動植鉱物に広がるとともに、専門家以外の庶民にも観覧の機会が与えられるようになった。開催地も、のちに名古屋が第四の中心地となる。

ところが、従来は薬品会の年表が無く、いろいろな点で不便を感じるものが少なくなかった。6年ほど前に「薬品会・物産会年表」を作成した（磯野直秀、科学医学資料研究、247号、6—14、1995年）が、その後、それに漏れていた会が相当数あることがわかり、他方では訂正を要する事例もいくつか出てきた〔注3〕。そこで、前報を増訂したのが以下の年表である。残念ながら、江戸・京都・大坂・尾張以外の各地については新しい知見がまったく得られなかったが、その資料発掘は今後二期したい。

〔注1〕 「薬品会」は、「やくひんえ」「やくひんかい」の両様の読みがあったようである。

〔注2〕 京都の医師津島恒之進が宝暦初年に大坂で物産会を開いたのが始まりと、しばしば記されてきた。その根拠は『兼葭堂雑録』の「津島氏モ毎歳浪華＝下リ、本草ノ会アリ」という文だが、「本草ノ会」は本草書の会読の会だった可能性が大きい。もし薬品会であれば、同じ宝暦年間の京都・大坂の薬品会記録である『楮鞭余録』や『文会録』で言及して当然なのに、まったく触れていないのである。

〔注3〕 今回の追加分のうち、『蕙畝日記』に基づく幕府医学館薬品会の記録は、岐阜の遠藤正治氏が調査・発表されたものである（遠藤正治、「小野蘭山・蕙畝の日記にみる医学館の本草講書と薬品会」、日本医史学会・日本歯科医史学会合同大会、1992年6月）。引用をお許しくださったことに、心から御礼を申し上げる。

〒232-0066 横浜市南区六ツ川3-76-3-D210, 慶應義塾大学名誉教授: Exhibitions of Natural Products in the Edo Period; a Chronological Table, by Naohide ISONO (76-3-D210, 3-chome, Mutsukawa, Minami-Ku, Yokohama 232-0066, Japan; Professor Emeritus, Keio Univ.) [Received Nov. 4, 2000]

[凡例]

- 1 この年表には、幕末までの薬品会・物産会を取めた。ただし、石品や古器物が中心の会、開催地や開催年が不明のものは除外した。会の名称は、原則として当時の記録の記載にしたがった。
- 2 江戸・京都・大坂・尾張・その他の5部に分けて年表を作成した。
- 3 閏月は④⑤のように表示した。
- 4 資料のうち略号(杏1, 国1, 雑2など)で示したものは末尾の「資料一覧」該当項を、書名を記したものは「書名」の項を参照していただきたい。なお、資料「岩5」は全12冊なので、第何冊かも表示した。

(1) 江戸

年号	西暦	月日	名称・会場・会主	資料・注記
宝暦7	1757	7月	田村藍水薬草会・於湯島	物類品騰, 岩14, 国11
8	1758	4月	” 於神田	” ” ”
9	1759	8/18	平賀源内薬草会, 於湯島 ^(a)	岩14, 国11
		9/15	浄光寺薬品会	” ”
10	1760		松田長元薬品会, 於市ヶ谷	物類品騰; 松田は田村門下
12	1762	④/10	東都薬品会, 於湯島, 平賀源内	” 東2, 岩14, 国11
明和1	1764		平賀源内薬品会, 於湯島	白井年表
3	1766		薬物会	錦窠翁耄筵誌 (p.197)
天明1	1781	⑤/28	薬品会, 於躰寿館	杏5, 岩15, 国11
2	1782	5/9	” ”	” 田村公用日記
3	1783	5月	” ”	”
4	1784	5/8	” 於田村西湖宅(百花街)	”
6	1786		” 於躰寿館 ^(b)	時還読我書, 泰平年表
7	1787		” ”	” ”
8	1788	5/27	” ”	雑1
寛政1	1789	5/27	” ”	蘭畹摘芳筆録本次編巻3(記年鳥)
4	1792	5/19	医学館薬品会 ^(c)	近聞寓筆冊3(近聞雑録)
5	1793	9/26	”	東1貼付紙片
7	1795		”	雑2
8	1796	4/19	”	雑3(巻2, ペニウオ)
		5/15	本所中之郷東江寺薬品会	国1
9	1797	9月	医学館薬品会	榛堂薬圃摘余
11	1799	9月	”	杏11; 蘭山日記によれば月末
享和1	1801	6/29	”	蘭山日記
2	1802	5/19	”	雑4(巻2, 潜龍齋)
		9/29	”	蘭山日記
3	1803	9/19	”	”
文化1	1804	10/19	”	”
2	1805	6/9	”	”
6	1809	9/19	”	”

	9	1812	4 / 9	〃	雑3（巻9，ギンポ）
	10	1813	8月	〃	我衣巻8（翻刻本134項）
	11	1814	4 / 9	〃	名物脞録
			5 / 24	詩経草木会，小野職孝，於衆芳軒	名物脞録
	12	1815	8 / 9	医学館薬品会	遊歴雑記三編上巻20 ^(d)
	13	1816	5月	〃	雑5（栗氏獸譜巻1，牛黄）
	14	1817	4 / 19	〃	雑3（巻15，オコゼ）
文政	1	1818	6 / 9	〃	杏1，雑6
	2	1819		〃	竜絵巻物（蛟竜）
	3	1820	5 / 19	〃	杏2，雑6
	5	1822	4 / 19	〃	蘭畹摘芳筆録本次編巻3（巨吻鳥）
	6	1823	4 / 29	〃	杏3，栗氏凶森（楡ノ属）
	10	1827	6月	〃	多紀氏の事蹟（p.175）
天保	3	1832		〃	東1 ^(e)
				福井春水薬品会	江戸繁昌記
	4	1833	4 / 4	医学館薬品会	東1
	5	1834	8 / 17-19	〃	蕙畝日記
	6	1835	4 / 17-19	〃	〃
	7	1836	4 / 17-19	〃	〃
	8	1837	4 / 18-19	〃	〃
	9	1838	6 / 2 ~ 7 / 1 ~	福井春水薬品会，於浅草大吉屋 於池之端池亭	金杉日記 〃
	10	1839	4 / 17-19	医学館薬品会	蕙畝日記
	11	1840	4 / 17-19	〃	〃
	12	1841	8 / 27-29	〃	〃
	13	1842	4 / 17-19	〃	〃
	14	1843	8 / 19	〃	〃
弘化	1	1844	4 / 17-19	〃	〃
	2	1845	4 / 17-19	〃	〃
	3	1846	4 / 17-19	〃	〃
	4	1847	4 / 18-19	〃	〃
嘉永	1	1848	4 / 17-19	〃	〃
	2	1849	4 / 17-19	〃	〃
	3	1850	4 / 18-19	〃	〃
	4	1851	4 / 18-19	〃	〃
	6	1853	4 / 19	〃	雑7
安政	6	1859	4 / 19	〃	雑8，医学館帳所収文書
文久	2	1862	4 / 19	〃	杏4，古事類苑方技部14
	3	1863	8 / 18-19	〃	杏4，東1，国6
慶応	1	1865	4 / 19?	〃	雑8
	3	1867	4 / 19?	〃	医学館帳所収文書

(a) 資料「岩14」「国11」中の請啓状（勸誘文）冒頭に「宝曆九己卯八月十八日薬艸会」，本文に「田村先生以丁丑戊寅之年已再為薬草会」とあるので，宝曆9年8月までの3回の会は「薬草会」と称していたとわかる。同資料で，宝曆9年9月と宝曆12年の会は「薬品会」と記す。宝曆10年と明和元年の会の正式名称は不明。

- (b) 『時還読我書』と『泰平年表』の記事から、天明6年2～5月に実施した「百日教育」のあいだに薬品会を開いたとわかる。翌7年も同じ。
- (c) 寛政3年10月24日、多紀氏の躋寿館を官立とし、医学館と改称した。
- (d) 『遊歴雑記』二編上巻64（文化12年の執筆らしい）によれば、橘町三丁目（現東日本橋駅付近）の薬店大坂屋平六でも、その頃毎年6月13日に虫干しを兼ねて薬品会を開いていたという。
- (e) 「東1」に所収されている天保4年の会の記載から、その前年にも開催したと推定される。

(2) 京都^(a)

年号	西暦	月日	名称・会場・会主	資料・注記
宝暦11	1761	4/15	豊田養慶薬品会、於東山双林寺	楮鞭余録
13	1763	4/15	鑑古堂産物会、於円山芙蓉楼	兼葭堂雑録巻2；不磷齋も会主
明和1	1764	4/26	〃 於東山也阿弥	岩2，東2，国11；五枝軒も会主
2	1765	4/15	〃 〃	東2
		8/13	見道齋物産会、於東山端之寮	岩3，国11；見道齋は伊良子光顕
3	1766	4/15	鑑古堂産物会、於東山也阿弥	岩7，雑9
		5/18	見道齋物産会	東2；「毎年五月十八日」とある
天明3	1783	8/18	医学院本草産物会	岩7；「春秋二会」とある
寛政11	1799	5/17-18	詩経草木多識会、於円山芙蓉楼	杏6，岩8，岩9，国9
文化5	1808	6/2	双林寺文阿弥物産会、蘭山社中 ^(b)	岩5-1，国11
6	1809	4/17	山本読書室物産会、於円山芙蓉楼	〃
7	1810	5/21	〃 於読書室	〃
		5/25	百々俊道物産会	岩4
8	1811	5/20	山本読書室物産会、於因幡薬師	岩5-1
9	1812	6/10	〃 〃	〃
10	1813	3/26-27	水野皓山物産会	岩4
		10/10-11	〃 於養寿館	岩1
		10/25	百々俊道物産会	岩22
11	1814	3/17-18	水野皓山物産会、於円山多蔵庵	岩4，岩21
12	1815	4/15	山本読書室物産会、於因幡薬師	岩5-1，国11
		4/25-26	水野皓山物産会、於養寿館	岩4
13	1816		山本読書室物産会、於読書室	岩5-1；以後、場所は読書室
文政1	1818	3/25	百々俊道物産会	岩20
		7(8)/5	〃	〃
2	1819	8/29-30	水野皓山物産会、於養寿館	岩19
3	1820	4/21	山本読書室物産会	岩5-1，国11
6	1823	5/15	〃	〃 〃
7	1824	5/10	〃	〃
8	1825	5/21	〃	岩5-2，国11
9	1826	5/17	〃	〃 〃 岩12
10	1827	5/10	〃	〃 〃 (月日は後者による)
11	1828	5/7	〃	〃 〃
		8/19	〃	〃
12	1829	5/10	〃	岩5-3，国11
天保2	1831	4/12	〃	〃 〃
		5/15	内藤朱蕉園物産会 (内藤剛甫)	岩5-12，岩6

3	1832	4 / 29	山本読書室物産会	岩5-3, 国11
		5 / 24	"	" " 大4
4	1833	5 / 7	"	" " 岩11
5	1834	5 / 16	"	岩5-4 " "
6	1835	6 / 10	"	" " 岩10
7	1836	4 / 10	"	" " "
		9 / 12	倭名類聚鈔草部展観会, 於祝音亭	杏7, 岩18
8	1837	5 / 10	山本読書室物産会	岩5-4, 国11
9	1838	④ / 14	"	" " "
10	1839	5 / 12	"	岩5-5 " "
11	1840	5 / 10	"	" " "
		5 / 18-19	神農本経中薬品類会, 高井正芳宅	岩5-12, " "
		7 / 3	浅井新兵衛薬品会, 於小田善	" " "
12	1841	4 / 15	山本読書室物産会	岩5-5, 国11
13	1842	3 / 25	"	" " "
14	1843	5 / 21	"	" " "
弘化1	1844	1 / 27	高井正芳物産会	日省簿
		5 / 8	山本読書室物産会	岩5-6
2	1845	6 / 5	"	"
		6 / 25	異国草木会, 高井正芳・賀島近信	杏10, 岩5-12, 白井年表
3	1846	5 / 10	山本読書室物産会	岩5-6
4	1847	5 / 21	"	"
嘉永1	1848	6 / 1	"	"
		④ / 10	"	岩5-7
3	1850	5 / 10	"	"
4	1851	5 / 23	"	"
5	1852	6 / 1	"	"
6	1853	5 / 12-13	医学院古方薬品会, 高井正芳ほか	岩5-12
		5 / 21	山本読書室物産会	岩5-7
		6 / 2	医聖書院高階氏薬品会	岩6
安政1	1854	5 / 10	山本読書室物産会	岩5-8
2	1855	5 / 21	"	"
3	1856	5 / 21	"	"
4	1857	⑤ / 10	"	"
5	1858	5 / 10	"	"
6	1859	5 / 10	"	" 蘭山五十年忌記念
文久1	1861	8 ~ 12月	海紅亭物産会, 山本溪愚 ^(c)	読書室200年史
		2 ~ 7月	" " ^(d)	"
2	1862	5 / 9-10	山本読書室物産会	大5, 国7
		8 ~ 10月	海紅亭物産会, 山本溪愚 ^(e)	読書室200年史
3	1863		山本読書室物産会 ^(f)	"

(a) 山本読書室物産会については、『読書室200年史』および『百品考』影印版に一覧表がある。

(b) 山本読書室では、この会を「読書室物産会」の第1回目としている（読書室200年史）。

(c) 8 / 1, 9 / 1, 9 / 20, 10 / 1, 11 / 1, 12 / 1 の6回（同上）。

(d) 2 / 10, 3 / 10, 4 / 10, 7 / 20 の4回（同上）。

(e) 8/10, 9/10, 10/11の3回(同上)。

(f) 山本読書室物産会は、この後も慶応年間に2回開かれたが、開催月日は不明。ただ、慶応3年が最後となったことがわかっている(同上)。

(3) 大坂

年号	西暦	月日	名称・会場・会主	資料・注記
宝暦10	1760	4/15	戸田旭山薬物会, 於浄安寺	東2, 文会録
11	1761		" 物産会	浪華物産会目録(国書解題による)
12	1762	3/8	" 鬪薬会, 於浄安寺	東2
明和1	1764	5/23	" "	"
安永4	1775	8月	産物会	雲根志三篇卷5
天保6	1835	4/16-17	玄昌堂物産会	岩5-9, 国11; 玄昌堂は岩永文禎
7	1836	4/17-18	"	"
8	1837	5/19-20	物産会, 於玉造服部実正堂	" 国11
		8/3-4	物産会, 於呉服町栗山静庵宅	" "
9	1838	4/22-23	玄昌堂物産会	" "
10	1839	4/19-20	物産会, 於三番貞円禅菴	岩5-10
11	1840	4/25	梶木町内藤氏物産会	"
12	1841	5/11	物産会, 於天満西寺町円通院	" 会主, 古林正見
		5/22	" "	" " "
13	1842	4/11-12	玄昌堂物産会	"
14	1843	9/18-19	"	岩5-11
弘化1	1844	5/16-17	"	"
3	1846	5/14-15	"	"
4	1847	6/3-4	"	"
嘉永6	1853	5/11-12	"	"
安政4	1857	5/16-17	"	"

(4) 尾張

年号	西暦	月日	名称・会場・会主	資料・注記
文政10	1827	3/15	本草会, 於修養堂, 伊藤圭介	大1, 国12, 菅百社沿革
		9/15	本草会, 於生济堂, 大河内存真,	" "
天保3	1832	3/5	物産会, 於射和延命寺, 西村広休	岩5-12
		6/20	尾張医学館薬品会	岩16, 杏12
		8/25	物産会, 於射和延命寺, 西村広休	岩5-12
		9/1	薬品会, 於修養堂, 伊藤圭介	大2, 菅百社沿革
4	1833	5/20	尾張医学館薬品会	大3, 雑10
5	1834	6/1-2	"	雑11, 名陽見聞図会三編下巻
6	1835	3/15	菅百社本草会, 於城南一行院	乙未本草会物品目録; 豊文追薦
8	1837	1/25	吉田雀巢庵博物会 ^(a)	国3, 国4
嘉永1	1848	3/15	薬品会, 於修養堂, 伊藤圭介	国2, 菅百社沿革
安政5	1858	4/23	桜斎居士追薦博物会, 於旭園	雑12, 桜斎は伊藤圭介の長男
万延1	1860	3/25	雀巢庵追薦博物会, 於七寺	招拾帖第2冊所収案内状

文久1	1861	3/25	伊藤圭介博物館，於旭園	嘗百社沿革
2	1862	3/25	嘗百社博物館，於旭園	杏13

(a) この会は石器や古器物の出品が多いのが特徴。以後も、嘉永1, 2年と安政2年を除き、安政6年(1859)まで毎年1月25日に開催(国3, 4)。1月25日が研究会で、26, 27日は博覧会と称して公開していたという(雑13)。

(5) その他の地域

年号	西暦	月日	名称・開催地・会場	資料・注記
宝暦8	1758	夏	熊府薬物会(熊本), 於再春館	岩17, 杏8, 国10, 国11
12	1762	5/6	〃 〃	〃 〃 〃 〃
明和1	1764	6/6	〃 於善音堂	〃 〃 〃 〃
文化12	1815	夏	和歌山医学館産物会	杏9
文政2	1819	6月	福井藩医学所第一回薬品会	日本教育史資料巻3
天保3	1832	9月	福井藩医学所第二回薬品会	〃
9	1838	9/21	和歌山医学館産物会	紀伊産物考所収産物会目録
13	1842	8月	福井藩医学所第三回薬品会	日本教育史資料巻3
弘化1	1844	3/17	長崎青葭堂物産会	岩5-12; 青葭堂は野田青葭
嘉永6	1853	6月	富山藩薬品会	国5
安政6	1859	5/9-10	和歌山医学館産物会	岩13, 杏15, 国8, 東3
慶応1	1865	9/17	泉州岸和田で本草会	幕末本草家交信録
2	1866	3/17	〃	〃
3	1867	4/17	〃	〃

資料一覧(☆, 複数の薬品会記録を含む)

[杏雨書屋]

- 杏1 文政元年六月医学館博物館手控(雑6参照)
- 杏2 文政庚辰五月十九日薬品会前夕所写(雑6参照)
- 杏3 医学館薬品会物品目録(乾1500本, 蔵書目録の「天保四年……」は誤りで, 文政7年と思われる)
- 杏4 医学館薬品会物品目録(乾633本, 文久3年)
- ☆杏5 薬品会記(江戸, 天明元~4年)
- 杏6 寛政己未夏詩経草木多識会品目(京都, 寛政11年, 木版刷)
- 杏7 倭名類聚鈔草部展覧品目(京都, 天保7年)
- 杏8 熊府薬物会目録(熊本, 明和元年)
- 杏9 産物会惣目: 文化十二年於医学館(和歌山)
- 杏10 異国草木会目録(弘化2年, 木版刷。白井年表参照)
- 杏11 寛政十一年己未九月躰壽館薬品会物品目録
- 杏12 天保三年壬辰六月廿日尾張医学館薬品会物品目録
- 杏13 文久二戊三月本草会目録(尾張)

- ☆杏14 読書室物産会目録（岩5の写しなので、年表には記載しなかった）
 杏15 安政己未五月上旬和歌山医学館産物会（6年）

[岩瀬文庫]

- 岩1 養寿館物産会目録（文化10年）
 岩2 鑑古堂物産会目録（宝暦14年）
 岩3 見道齋物産会目録（明和2年）
 ☆岩4 物産会集録
 ☆岩5 読書室物産会目録（注1）
 ☆岩6 物産叢書
 ☆岩7 明和三年物産会目録・天明三年医学院物産会目録
 岩8 寛政己未多識会品目（11年）
 岩9 多識会品目（寛政11年，木版刷）
 岩10 天保六年物産会目録（山本読書室）
 岩11 天保四年物産会目録（同前）
 岩12 文政九年物産会目録（同前）
 岩13 和歌山産物会目録（安政6年）
 ☆岩14 鳩溪薬品会目録
 岩15 躋寿館薬品会目録（天明元年）
 岩16 尾州薬品会目録（天保3年）
 岩17 熊府薬物会目録（熊本，明和元年）
 岩18 倭名類聚鈔草部展観品目（天保7年）
 岩19 可恃録（水野皓山物産会，文政2年）
 ☆岩20 観生堂雑抄第5冊（水野皓山編）
 岩21 漸包集（水野皓山物産会，文化11年）
 岩22 本草雑記（百々物産会，文化10年）

[国会図書館]

- 国1 寛政八年丙辰五月十五日江戸本所中之郷東江寺薬品会名目
 国2 弘化五年修養堂薬品会目録（尾張，嘉永元年）
 ☆国3 博学会目録（尾張，国4とほぼ同じ）
 ☆国4 尾張名古屋博学会目録（天保8年～安政6年）
 国5 富山藩薬品会目録（嘉永6年，木版刷と写本の2点）
 国6 医学館薬品会物品録（文久3年）
 国7 文久壬戌読書室物産会品目（2年）
 国8 安政己未五月九日十日紀州和歌山医学館産物会目録（6年）

- 国9 寛政己未夏詩経草木多識会品目（11年，木版刷）
国10 熊府薬物会目録（熊本，明和元年）
☆国11 鍾奇遺筆（岩永文禎編，注2）
☆国12 本草会目録（尾張，文政10年3・9月）

[大東急記念文庫]

- ☆大1 本草会目録（尾張，文政10年3・9月）
大2 薬品会目録（尾張，天保3年。注3）
大3 薬品会物品目録（尾張，天保4年）
大4 天保三年壬辰之夏五月物産会目録（京都，山本読書室）
大5 文久二年壬戌五月九日十日平安読書室物産会品目（木版刷）

[東京大学総合図書館]

- ☆東1 医学館薬品会品目録略記（天保4年，文久3年）
☆東2 宝暦明和年間物産会目録
東3 安政六己未五月九日十日医学館産物会品目録（和歌山）

[雑件]

- 雑1 『蘭香』，天理図書館善本叢書『洋学者稿本集』，八木書店，1986年。そのなかの「博物会案内刷物」が該当資料。
雑2 谷津直秀，隠れた博物学者亀協従，植物及動物，8巻7号，81-83，1940年。
雑3 栗本丹洲，『栗氏魚譜』，国会図書館伊藤文庫蔵（転写本）。
雑4 栗本丹洲，『栗氏魚譜』，杏雨書屋蔵（自筆本）。雑3とは構成が異なる。
雑5 栗本丹洲，『栗氏図譜』，杏雨書屋蔵。「栗氏獣譜」「栗氏禽獣譜」「諸物図彙」「栗氏諸譜」「栗氏草木譜」の5部から成る。最初の3部が栗本丹洲自筆。
雑6 磯野直秀，日本博物学史覚え書（II），慶應義塾大学日吉紀要・自然科学，16号，40-63，1994年。
雑7 『第10回銀座古書の市目録』（1994年）掲載写真による。
雑8 川瀬一馬，躋寿館出席留，『日本書誌学の研究』，大日本雄弁会講談社，1943年。
雑9 白井光太郎，蘭山先生と同時の博物家に就て，『白井光太郎著作集』，第1巻，科学書院，1985年。
雑10 岸 雅裕，天保四己未五月二十日尾張医学館薬品会物品録，雑11に所収。
雑11 名古屋市博物館編，図録『よみがえる尾張医学館薬品会』，名古屋市博物館，1993年。
雑12 名古屋市博物館編，図録『名古屋の博覧会』，名古屋市博物館，1982年。
雑13 榎 英一，江戸時代の博覧会，雑11に所収。

- [書名] (五十音順。略称の場合は、→の後に正式書名を記す。[]内は影印・翻刻版)
- 『医学館帳』, 安政6年以降の幕府医学館関係文書集, 内閣文庫所蔵筆写本。
- 『乙未本草会物品目録』, 名古屋嘗百社編, 天保6年刊。[江戸科学古典叢書45『博物学短編集 下』, 恒和出版]
- 『雲根志』三編, 木内石亭著, 享和元年刊。[築地書館]
- 『江戸繁昌記』, 寺門静軒著, 天保3年刊。[平凡社東洋文庫]
- 『金杉日記』, 山崎美成著。[続燕石十種, 第3巻, 中央公論社]
- 『紀伊産物考』, 小原良直編, 内閣文庫所蔵自筆本。
- 『錦窠翁壺筵誌』, 巻3, 田中芳男編・発行, 1890年。
- 『近聞雜録』, 吉田林庵著, 『近聞寓筆』巻3 (文政9年跋)。
- 『摺拾帖』, 田中芳男編, 東大総合図書館田中文庫蔵自筆本。
- 『蕙畝日記』, 小野職孝の日記, 国会図書館支部東洋文庫蔵自筆本。
- 『兼葭堂雜録』, 木村兼葭堂著・暁鐘成編, 安政6年刊。[日本隨筆大成, 1期14巻, 吉川弘文館]
- 『国書解題』→『増訂国書解題』, 佐村八郎著, 1904年。[日本図書センター]
- 『古事類苑』「方技部」, 神宮司序編刊, 1909年。[吉川弘文館]
- 『時還読我書』, 多紀元堅著, 1873年。[杏林叢書, 思文閣]
- 『楮鞭余録』, 豊田養慶編, 宝暦11年刊。[江戸科学古典叢書45『博物学短編集 下』, 恒和出版]
- 『嘗百社沿革』→『尾張博物学嘗百社創始沿革並諸先哲履歴雜記』, 伊藤圭介著, 『錦窠翁九十賀寿博物会誌』, 1893年。
- 『白井年表』→『[改訂増補] 日本博物学年表』, 白井光太郎著, 大岡山書店, 1934年。
- 『榛堂菜圃擷余』, 曾占春著, 内閣文庫蔵筆写本。
- 『泰平年表』, 大野広城著, 天保12年刊。[続群書類従完成会]
- 『多紀氏の事蹟』, 森潤三郎著, 日本医史学会, 1933年。
- 『竜絵巻物』, 栗本丹洲著, 国立科学博物館蔵自筆本。
- 『田村公用日記』→『田村藍水西湖公用日記』(史料纂集79), 続群書類従完成会, 1986年。
- 『読書室200年史』, 遠藤正治編著, 山本読書室, 1981年。
- 『日省簿』, 山本榕室の日記, 岩瀬文庫蔵筆写本。[遠藤正治編, 山本榕室『日省簿』, 実学史研究VIII・IX, 1992・93年; 弘化元年・嘉永6年の分を翻刻]
- 『日本教育史資料』, 文部省編, 1892年。[臨川書店]
- 『幕末本草家交信録: 畔田翠山・山本沈三郎文書』, 上田稷編, 清文堂, 1996年。
- 『百品考』, 山本亡羊著, 天保9年・嘉永元年・6年刊。[科学書院]
- 『物類品隲』, 平賀源内編, 宝暦13年刊。[平賀源内全集, 名著刊行会]
- 『文会録』, 戸田旭山編, 宝暦10年刊。[江戸科学古典叢書45『博物学短編集 下』, 恒和出版]

『名物勝録』，荊山，国会図書館蔵筆写本。

『名陽見聞図会』，歌月庵喜笑著，美術文化史研究会，1987年。

「遊歴雑記」→『十方庵遊歴雑記』，釈敬順著。[江戸叢書，巻3～7，名著刊行会]

『蘭畹摘芳』筆録本，大槻玄沢編，東京国立博物館蔵原本。

「蘭山日記」→『蘭山先生日記』（小野蘭山著），末中哲夫・遠藤正治編著，実学史研究V
～VII，思文閣，1988・90・91年。

『栗氏凶森』，栗本丹洲著，東京国立博物館蔵自筆本。

『我衣』，加藤曳尾庵著，日本庶民生活史料集成，第15巻，三一書房，1971年。

（注1）山本読書室物産会の大半をはじめ，多数の薬品会の目録が集録されている。

（注2）巻2・3に多数の薬品会の目録が集録されている。国会図書館は『鍾奇遺筆』を2
点蔵するが，ともに該当巻を含む。

（注3）資料「大2」には年記がないが，「嘗百社沿革」記載の出品内容との一致から，天
保3年9月1日の会とわかる。